

第28号
2005年
11月13日

11月26日(土)

夕6時より

■ 報恩講の歌

・ 正信偈（行譜）

■ 恩溫讚

○お斎（懇親会）

◎大切な報恩講です。是非皆様ご参加下さい。なお、お斎（懇親会）は例年通り会費制で行います。欠席の方は事前にお知らせ下さい。

\$ \$ \$ \$ \$ \$ \$ \$ \$ \$ \$ \$ \$ \$ \$ \$ \$ \$ \$ \$

報恩講の当日、午後一時半より、法輪

寺本堂におきまして坂田組の行事であります「連研法座」が開催されます。

法座では法輪寺住職が『撰取不捨と願われて』と題しまして法話を致します。

ご都合がよろしければ、梅鶯仏壮会員をはじめ皆様方にも是非ともご参加いただきますようご案内申し上げます。

会長 北村喜代信

この度、皆様のご声援とご援助に依り、市会議員に当選致すことができました。身にあまる光栄でございます。

立候補者が定員の1・5倍という大激戦にあつて、上位で選ばれましたことは、望外の喜びであり、ただただ感謝申し上げます。

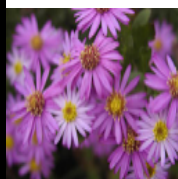
梅鶯仏壮会員の皆様や、有縁の方々にも、いろいろとご支援を賜りましたこと、真に僭越ではございませんが、会報紙面をお借り致しまして、改めて厚く御礼申し上げます。

これからは、皆様のご支援ご声援に報いたなければなりませんという責任が生じたわけでございます。

私か市議会に出しても何も言わない、あるいは何も言わないと言われるようなことでは、皆様に對しまして面目がありません。市政についての勉強に専念いたし、皆様のご期待に背かぬよう心

掛ける覚悟でございます。
私はこれまでも社会人として誠

心誠意ものごとに当たってきたつもりではございますが、今後市会議員として様々な問題に対し、



今まで以上に即物的な対応を迫られることも多くあるかと思えます。

その際には、梅鶯仏壯で培つていただきました心の世界を大切にして、人の痛みや悲しみを分かち合える、そのような市会議員になりたいと思っております。

今後とも皆様の一層のご指導
ご支援をお願い申し上げます。

なお、十一月二十六日の梅鶯
仏士の報恩講には、会員・賛助

会員の皆様が一人でも多く参加していただき、ますますことをお願い申し上げます、ご挨拶と御礼の言葉

とさせていただけます。

[illegible]

私がこの世に生れてきたのは私でなければ

できない仕事がある
何か一つこの世にある

からなのだ

低いかな そんなことは

その仕事がない
問題ではない
である

かを見つけた。そのため

打ち込んでゆくに精一杯の魂を

相田みつを

題材法話

*前号からのつづき

○『清浄光』Ⅱ

つぎに清浄光ですが、清浄とは字のごとく不純物が混ざっていない清い光という意味です。

煩惱が耐えることのない私達の存在ですが、その煩悩を炎で焼き尽くすだけではなく、私達の存在を清らかに変え、そして浄土に迎えるようにとされるのが、阿彌陀様の働きなのです。

和讃に、「清浄光明ならびなし、（中略）一切の業繋ものぞこりぬ」とありますが、「一切の業繋（ごうけ）」とは、一切の束縛という意味で、煩惱の束縛から解き放たれて、清浄な存在へと変えて頂くのが、阿彌陀様の働きであります。

○『歡喜光』Ⅱ 本当のよろこび



つぎに阿彌陀様を歡喜光と讃えておられます。と、本光の喜びを与えて下さる光と言ひこととです。と、一般的に私達の喜ばや、は、愛することの喜ばや、健康であることの喜ばなど、成功した喜び、あるいは、様々あるでしょう。悲しいかな、私達の世界での喜びは、長続きがしないのです。必ずしも終りがあります。まだ良いものですが、多くは苦しみにへと変わっていきます。

と、ところ、阿彌陀様からいただく喜びは、阿彌陀様が、常に私のそばにいます。喜ばや、病気の時も失敗したときも、年を取っても死ぬ間際でも、さえも変わらな

いのちを根本とした、生老病死を根本とした、苦しみにから



は免れることは出来ませんが、全てを任せきることのできる阿彌陀様と常に一緒にだという喜びは、その苦の中においても変わることがないので、これが歡喜光という阿彌陀様の働きです。

○『智恵光』Ⅱ 光に照らされた生活



智恵とよく似た言葉に知識は区別して捉えなければなりません。

知識とは、モノを知ること、知識は大切なこと、知識は損か徳かの争い、また、高くて豊かな知識が身につけば、他人が愚かに見え、まいます。自分を見え、モノの値打ち、何が大切な

のかと云うことを見抜く力であり、知恵が伴うことにより、はじめに知識も上手に使うことが出来るのです。

阿彌陀様の智恵の光は、私達に自分の本当の姿を見える目を与えてくれます。妙高人の源左さんが、「ご法義にあらうたら、世の中のこととが本當にならう。」「といわれては利かなくなるのです。

立派に見せようとして、この私の在り方が、「あさまし、おはすかし」の生活に変わり、「もつと欲しい、まだ足らん」という見方が、「ありがたい、もつたいない」という世界に変わっていくのです。

これが智恵光としての働きです。

9月例会住職法話より

